

昭和二十八年五月十五日第三種郵便
昭和四十一年八月一日(毎月一回)日本

雪印種苗株式会社

藝園草牧

夕張郡長沼町字幌内一〇六
雪印種苗株式会社

中央研究農場



牧草の害虫（I）

酪農学園大学講師 坂本与市



ウリハムシモドキ

ウリハムシモドキ

北海道においては幼虫は6月下旬頃、成虫は8~9月頃加害する。双方とも数ヘクタールにわたってクロバーを全滅させることもめずらしくない。

第1回発生で卵態で越冬し、春季、幼虫はクロバー、大豆、甜菜などの作物の葉を食害する。初夏に新成虫が羽化し、初秋まで加害をつづける。本種は特に泥炭地、火山灰地、海浜の砂土地等の放牧地に発生が多い。



ツメクサタコゾウムシ

北海道と東北地方に発生し、成虫は4mmくらい、青緑色である。牧草地の土中や枯葉の下で成虫態で冬を越し、4月中旬頃からクロバー類を食害する。幼虫は6月頃孵化してクロバーの托葉内部や頭花に侵入して、その基部を食害するので、頭花は変形枯死し、結実不能となる。7月下旬から新成虫が羽化するが、経過は不揃いで、幼虫、蛹、成虫各態とも10月頃までその姿を認めることができる。

本種はクロバー類のうちでも特に赤クロバーを好むが、まれに大豆にも大害を与えることがある。



ツメクサタコゾウムシ